

夏休み子ども文章の つづり方教室



8月6日・7日・8日・22日の4日間にかけて、市内の小学生15人が『夏休み子ども文章のつづり方教室』に参加した。

講師を務めたのは、入間市出身のノンフィクション作家 神山 典士氏。

生徒は市内の企業等取材し、入間市の魅力をテーマに作文を書いた。

せかいでベスト3のかいしゃ

扇小一年 豊山 葉乃

かぶしきがいしゃいりせせいみつで、ましにんぐせんたーをうごかしました。いりせせいみつのじゅうぎょういんさんは13人くらいでした。せかいでベスト3に選ばれた会社です。会社ができてから50年たっています。社長さんの名前はさいとうさんです。ましにんぐせんたーは、はものがあつておともあります。においはくさかつたです。

あながあくところもおもしろかったです。みえないものもちゃんとみえるきかいがありました。500えんだまをよくみてみたら英語のNがありました。マイクロパーツハンドリングシステムをうごかしました。ぶろっくをうごかしてさいごはおとげーむをやりました。

8月6日にこうやませんせいたちと、ともだちの15人で、こうじょうけんがくにいきました。べんきょうしてさくぶんをかくためです。

いままではいるましをふつうの町だと思っていたけれど、いりせせいみつにいつてきかいをうごかしてみたことで、すごいまちだと思いました。

いるましは大きな町

藤沢東小一年 須藤 煌大

ぼくは、8がつ6にちにいりせせいみつにいきました。ドリルがドドドドとおとがした。キカイをうごかしてはんのうした。

0・1みりのさいころをみました。みたらほんとおちつちやかつた。しゃちょうさんはさいとうさん、女の人は、りえさんとかいてたのしかつた。

にほんぎこうみんかんでは、うどんをこねた。かたかつたけどたのしかつた。うどんをこねるときはふくろに入れて、ほうちょうでゆびをきらないようにした。うどんをふむときぶきぶきうるさかつた。うどんをたべる量のいちばんは、かがわけん。にばんめは、さいたまけん。つるつる会のくりはらあきらさんとうどんをつくつた。ふんだり、こねたりほうちょうできつたりして二十ぱいたべた。

せんせいたちがつくつたうどんは、おいしかつたです。いままでは人間市を、ちいさいまちだとおもっていたけれど、うどんをつくつてたべたことで大きなまちだともいえました。

いりせせいみつにいったよ

藤沢東小一年 鳥越 彩葉

いりせせいみつは、十三にんではたらいているかいしゃです。てつをけずつたのをみせてくれました。そのあいたあなのおおきさは、3みりくらいでした。てつでつくつたくるまのねだんが10まんえんくらいでびっくりしました。ピンセットでちいさなちいさなブロックをつまんでもちあげるのかがたのしかつたです。せかいベスト3のかいしゃで、てつでつくつたばらの花はねだんがつけられないといっていました。

にほんぎこうみんかんでは、うどんをつくつてつるつるつかいのひとにうどんのつくりかたをおしえてもらいました。せんせいは、ながさわさん、たけしまさん、くりはらさん、はせがわさんでした。

うどんをたべるとつるつるもちちしておいしかつたです。かがわけんはいちばんうどんがたべられています。二ばんめは、さいたまけんです。うどんがいちばんおいしいのはさいたまけんです。

うどんを10はいたべました。

いままでは人間市は大好きな町

豊岡小三年 内野 葉

「大もりでくださーい！」

うどんを作っているつるつる会の先生たちにおねがいしました。したら、つるつる会の先生たちが「はいどろぞ」と言ってくれたので、「ありがとうございます」と言いました。

さいしょに食べたうどんは、一ばんのめんでした。これは、ぼくがつくつためんです。一口でばくと食べてしまいました。ぼくは、作るとき、「口に合わない」と思いました。でもどうでしょう。「お、おいしい、こんなうどん食べたことがない。」ふだんでは食べられないそう言うどんでした。よそをこえたおいしいうどんでした。

その次の、めんは2はんです。「大もりでください。」とおねがいました。

先生は、はせがわ先生と三人の先生です。はせがわ先生たちがゆがいてくれました。

それをおいしくみんな食べました。ぼくは四十一ぱい食べました。

うどん45はい食べた!!

豊岡小三年 宮岡幸太郎

ぼくは自分が作ったうどんを45はい食べて1いのトッ
プでした。いままでたべたなかで一ばんおいしかったで
す。家で食べるうどんよりつるつる会の人がつくるほう
がおいしかったです。

8月6日火曜日にこう山先生と15人の子どもで作文を
かくために二本木こうみん館に行きました。つるつる会
のみなさんとうどんをつくりました。おしえてくれたの
は、はせがわさんとながさわさんです。

世界1ふだんからうどんを食べているのはかがわ県で
す。2ばん目は、さいたま県です。

さいたまけんが一ばんになるには、一年間毎日2しよ
くうどんを食べないと一ばんには、なれませんが。でもか
がわ県は、食べているからすごいと思いました。

むかしは、かわが、ないから田もなくてこめがつくれ
ないからうどん・そばは、こうきゅうだったそうです。

いままでいるましをなんともいえない町と思っていま
した。でもうどんがおいしいまちになりました。

つるつる会のうどん作り

扇小三年 細江彩香里

わたしは、8月6日火曜日に、こやま先生と十五人
のみんなでバスにのって二本木公みんかんにいきました。
つるつる会の先生にいろいろしつもんをしました。二
本木公みんかんのぶんかさいの日は、十一月一日と二日
だとか。かいちょうの名前はたけしまさんで72さい。わ
たしの先生はくりはら先生で5人の先生がきました。

はじめてしつたことは夏のしお水のりようは少なく、
ふゆは多く、ということでした。わたしはまえからうどん
の水のりようはいつもおなじだとおもっていました。ほ
かにはそばはしなやかにできあがるとか、おいておくど
きは日あたりのいいところにおくとか、ゆでる時間はだ
いたい十分とか。

そしてさようならをしたら、バスにのっていりせせい
みつにいきました。いりせせいみつのしゃちようさんは
さいとうきよかずさんでした。はじめてしつたことは、
500円玉の5の5へんにNとかいてあったことでした。
まえからしつていたことは、あまりありませんでした。

楽しかったうどん作り

金子小三年 箱崎 心音

わたしが一番楽しかったのは、うどんをこねるところ
です。うどんをこねるときは、手のはらでこねるといい
と言われました。やわらかくて、きもちよかったです。

こねたあとは、大きなビニールぶくろに入れて、あし
でふみます。一回目より二回目のほうがやわらかかった
です。うどんをきるときは、ほうちようを、前に、おし
だしたらきりやすいと言われました。

たべるときに45はいたべた人がいてびっくりしまし
た。ぜんこくでうどんを食べるようは、1いかがわけ
ん2いさいたまけんです。さいたまけんが1いになるに
は、ひとりが1日2回うどんをたべると、1いになれる
そうです。

8月6日火曜日。神山典士先生と15人の子どもと、まつ
したさんと、なかむらさんと、さわださんと、とお山さん
とにほんぎこうみんかんといりせせいみつに行きました。
いままで入間市を茶の国だとおもっていたけれど、う
どん作りをしたことで、みんなにあいさされている町とか
わかりました。

うどん作りと、手作り中のいろいろ

宮寺小三年 兎玉 奈緒

わたしが、一番楽しかったのは、うどん作りです。夏
休み中の8月6日、まわりのお友だち15人と二本木公み
ん館のつるつる会と言う所に行きました。文章つづりの
ためにうどん作りをしました。

つるつる会は、うどん作りを十年い上、やっているそう
です。教えてもらう人はくりはらあきらさんでした。うど
んこ1キロにたいして、水450ccです。冬に水を多め、
夏に水を少なめとつるつる会の先生が言っていました。
さわってみるとのめっこくなっていたり、つるつるし
たり、もむと、だんりよくせいのあるさわりごちでした。
足でふんでもちよつとかたかったです。

全国で一番が、かがわ県、二番が、さい玉県。入間市
のうどんが一番おいしかったです。

むかし、このへんには川がないので、田んぼがなかつ
たそうです。だからうどん作りがさかんでした。
いままでは、入間市を楽しくない町だと思っていたけ
れど、うどん作りをしたことで、楽しい町へとかわりま
した。

入間市のうどんは一番おいしい

藤沢東小三年 鳥越 美海

楽しかったうどんづくり

新久小三年 西川 はな

8月6日に文章書き方教室のこう山先生と15人の1・3・4年生のみんなと、にほんぎこうみん館へバスで行きました。うどん作りを10年間やっているつるつる会のかくりはらさんやせがわさんがさわさんともう一人のせがわさんにうどん作りを教えてもらいました。いままでは入間市をお茶しかゆうめいじゃない街とおもっていたけれど、うどんをつくって食べたこととお茶以外にも有名なことがある町だと思いました。

うどんにつけるしるを作ります。うどんにつける日本のしるのひみつは、まずこんぶのだしをとってにがくる前にこんぶをぬきます。あとかつおぶしをふくろに入れてつけて、しょうゆとすを入れ、どんこのだしをぬいたものです。

食べてみました——。おいしかったです。やっぱり自分で作ったうどんが1ばんおいしかったです。

入間市のうどんが1ばんおいしい。1ばんうどんをたべているのがわけん。2ばんはさい玉けんだそうです。

わたしは、夏休みの文章のつづりかたきょうしつで、うどんを作りました。

台の上のせて、めんぼうで、きじをのばします。ころがしたら自分のほうによせるのを、なんかいもくりかえします。おわったらほうちようできじを切りまします。わたしは、うどんをきるためのほうちようをはじめてみました。もちかたもわからなかったけれど、教えてくれてやってみたら、さいしよは、ほうちようで切るときはゆれていたけれど、なれてきたらふつうに切れるようになりました。まだめんが細かったり太かったりしたけれど、切るのは楽しかったです。きじを切るのはさいしよはとてもこわかったけれど、できるようになってあんしんしました。だんだんうどんぼくなるきじをみて、もうちょっとでできる。うれしいな—と思いました。

うどんづくりを覚えてくれたせがわさんといろいろな人たちといっしょに、みんなできょうしつけんめい作ったので、おいしくできるといいな—と思いました。

うどんづくりとセイミツきかい

新久小三年 西川 武蔵

はじめてのうどん作り

新久小三年 西川 ゆず

ぼくは、8月6日火曜日にこう山先生と15人のみんなとバスにのって作文教室に行きました。にほんぎこうみんかんでつるつる会のみなさんがうどんのつくりかたをおしえてくれました。先生はたけしまさんがさわさんはせがわさんくりはらさんです。

一番おいしかったところは先生たちがつくったうどんです。おいしすぎて15はいぐらい食べました。おなかがんばらんだったけれど、おいしかったからむりやりたべました。また先生たちのめっちゃおいしかったうどんをどこかで食べたくなりました。

つぎにイリソセイミツに行きました。13人の小さな会社だけで、2013年に世界でベスト3にえらばれたすごい会社です。一番楽しかったことは、マイクロパーツハンドリングシステムで、たてが1ミリよこが0・3ミリの小さなブロックをもちあげたことです。はじめはもちあげられないと思っていましたが、じょうずにもちあげることができたので、とてもうれしかったです。

わたしは、夏休みの八月六日にゆかたのこうやま先生と15人のみんなといっしょに、バスにのって二本木公みん館へ行きました。

うどん作りをして、いちばんたのしかったことはふんだことです。ふんだときにねんどみたいでも気もちよかったです。こうやま先生がふんだときに、きょうりゅうの足あとみたいな形になって、おもしろかったです。

こうやま先生が、「みんなこっちへおいで—」といっただので、いってみたら、つるつる会の人たちがだしをついていました。そしたら「こんぶと、どんこでだしをついているんだよ」とおしえてもらいました。

わたしは、なべの中を見たときに、どんこがしいたけにとでもよくにっていたのでまちがえてしまいました。でも、どんこおしえてもらって、しいたけじゃないことがわかりました。「のうかにおよめに行くときは、うどんをつくれなければいけなかったんだよ」と、つるつる会の人たちがおしえてくれました。

のめっこいうどん

扇小四年 豊山 瑠乃

夏休みの八月六日に、浴衣の神山先生と文章のつづり方教室のみんな（十五人）で二本木公民館へバスで行きました。つるつる会のみなさんがうどんを作るお手本を見せてくれました。先生はつるつる会の長谷川みつおさんです。

私がうどん作りで一番楽しかったのは、うどんをふむところでした。先生がやると、丸くきん等になりました。三〜四回ふむのがきじゅんだそうです。次に、私達がやる番になり、ふむと五人で交代でやっても先生のように丸く作れませんでした。神山先生がうどんをふむと、きょうりゅうの足あとのようでした。踏んだ後のうどんの感触は、つるつるしていて、気もちよかったです。

昔は、入間市に川がなく、お米が作れなかったので小麦粉を使ってうどんを食べてたそうです。入間市に嫁入りするなら、うどんが作れないと嫁入りができなかったそうです。また、うどんはごちそうです。

今までは入間市をお茶しか有名じゃない町だと思っていたけれど、うどんも有名だとかわかりました。

つるつる会といりせせいみつの見学

宮寺小四年 児玉 結太

昔このあたりでは田んぼがなかったのがうどんをたべてました。田んぼがないのは、川がなかったからです。うどんの作り方は、むぎのこな1キロ。水の中には、塩がはいっています。こむぎこみずをまぜると、こむぎこにおいがします。

8月6日火曜日に、二本木公みん館へ子ども15人と先生といきました。大人になったときにつるつる会にはいるのかもいいなと思いました。うどん作りをしたのしかったですからです。

うどんをたべてからいりせせいみつへいきました。会長さんはさいとうさんです。せつめいしてくれたのは、みねのさんです。いりせせいみつはやく50年やっています。会長さんもしれば13人ではたらいっている。小さな会社で、世界でベスト3位。

いままでも入間市をふつうの町だと思っていたけど、つるつる会といりせせいみつを見学したことで、うどんはうまかったし、てつでなにか作れるとわかりました。

うどん作りと入曾精密の見学をした

狭山小四年 新井 凜

ぼくは、8月6日火曜日にゆかたのこうやま先生と15人のともだちと、うどん作りと入曾精密に行きました。

ぼくが一番楽しかったのは、うどん作りのうどんをきるところです。きったときの、かんかくがなんかきもちよかったからときりおわって木にあたったときの音がすきでした。

一番おいしかったのは先生たちがつくったうどんです。ぼくは10ばいたべました。1番たべていたおともだちは40ばいいじょうでした。そんなたべる人は、ぼくがはじめてみました。ほんとうにびっくりしました。

バスで、株式会社入曾精密へ行きました。アルミのながあって、その花はねだんがつけられてなくやく50万円と書いていました。あと0・1mのさいころもありました。すごくちいさな点で、世界で1番ちいさなさいころです。いままでも入間市をすごくない町だとおもっていましたが、うどんをたべたり入曾せいみつに行っただことです。すごい町だとおもった。



作文教育とふるさとキャリア教育

ノンフィクション作家 神山 典士

今年で3回目になる「入間市の宝探し子ども作文教室」には二つの狙いがあります。一つは作文の書き方の技術指導。もう一つは「入間市の宝物」を見つけてこの町を愛してもらおう。将来もこの町に住みたい、関係を続けていきたいと子どもたちに思ってもらおう。つまり作文とふるさとキャリア教育とのパッケージ企画なのです。

子どものころ作文はよく書かされたという記憶を持つ大人は少なくないと思います。かつてはどの小中学校でも「生活つづり方」指導が行われていました。自分の生活や体験をありのままに書く。入間市の小中学校では昭和初期から現在まで、連綿と文集が作られてきました。ところが具体的に作文の書き方の指導を受けた記憶はほとんどない人が多い。ましてここ20年以上、小中学校の国語の指導要領には「作文」という単元はなくなりました。「日記」や「報告文」という単元はあっても、生活のありのままや自分の心の動きを綴る「作文」は書かなくなっている。これでは文章を書く力は育まれませんか、昨今話題の読解力も身につけません。作文は千本ノックと同

じで、繰り返し繰り返し書くことで力が育まれます。

子どもたちにとって、「心を震わせて書く」ことは楽しいことです。今回の体験を通して、書く習慣を身につけてくれたらいいと思います。

しかもこの企画の心を震わせる「震源地」は、「入間市の宝物」です。今年は二本木公民館で10年以上手打ちうどん作りを続ける「つるつる会」の皆さんと、世界で指折りの精密技術を持つ入曽精密さんにお世話になりました。粉から打って自分で包丁で切ったうどんのおいしかったこと！埼玉県は全国二位のうどん県で、その中でも入間市は昔からうどん作りが盛んだったこと。子どもたちには忘れられない思い出になったはずです。

また入曽精密さんで見えた0・1ミリのサイコロ。原稿用紙に鉛筆の先で点を打って、サイコロを表現した子どももいました。世界的な技術が入間市にある驚きから、素敵な作品が生まれてきました。

昨今ほどの市町村でも人口減少期に入り、ふるさとキャリア教育はさまざまな形で行われています。「茶の花」等文集の伝統が息づく入間市では、作文はそのキラークンテンツになりうると思います。ご家庭でもぜひ、文章を書かせる習慣を大切にしてください。本企画を運営して下さった関係者の皆様に、深く感謝いたします。